

AIの誤用と 性的ディープフェイク

この教材では、生成AIとその誤用について解説します。特に、生成AIを用いて人物の写真を加工し、裸（ヌード）に見せる行為、いわゆる「性的ディープフェイク」に焦点を当てています。

レスンプラン

本教材は、以下の3つのレスンプランで構成されています。

1. 生成AIの基礎

「生成AI」とは何か
どのような用途に利用されているか

2. 生成AIの誤用と起こりうる影響

不適切な使用例
個人や社会への影響

3. 性的ディープフェイク画像への対応

生成AIによって作られた裸画像の問題
適切な通報・対処方法

※各レッスンには、**スライド**および**付録資料**が付属しています。

※レッスン3の最後には、学習内容の定着を目的とした**発展的な活動**が含まれています。

実施時間

各レッスンは1時間を想定しています。

必要に応じて、内容を分割し、短時間で実施することも可能です。

対象

対象年齢：13歳～17歳です。

※11歳・12歳への実施も可能と考えられますが、その際は必ず組織の責任者と子どもの安全を担当する責任者と協議の上で判断してください。

AIの誤用と 性的ディープフェイク

目次

教育者向けガイダンス	3
なぜこの問題に注目するのか？	3
ヌード画像と性的ディープフェイクに関する法律	5
テーマと主要用語の理解	6
セクストーション	7
保護者との連携	7
安全で支援的な学習環境を整える	8
レッスン1	9
付録1	13
レッスン2	14
付録2a	18
付録2b	20
レッスン3	23
付録3a	28
付録3b	29
付録3c	30
付録3d	31
日本の法律と通報について	32

なぜこの問題に注目するのか？

青少年諮問委員会での話し合いから、画像や動画を含むインターネット上のコンテンツが、本物かAIで作られたものかを見分けることが難しいと感じている若者が多いことが分かっています。また、[英国セーフター・インターネット・センター](#)の一員であるオンライン安全支援団体[Childnet](#)には、生成AIによって作られた性的な画像に関する悩みや相談が、実際に若者からこれまで以上に多く寄せられています。

こうした状況は調査によっても裏付けられています。例えば、[Thorn \(2025\)](#)の調査では、17人に1人の若者が性的ディープフェイクによるヌード画像の被害を経験したことがあると報告されています。さらに、16%の若者は「現実のものではないため深刻ではない」と認識しています。一方で、「被害にあった場合は親に相談する」と答えた若者は62%でしたが、実際に相談した割合は34%にとどまっています。

加えて、ここで重要なのは、このような画像を作成するツールが簡単に入手できる点です。多くの若者が、アプリストアや検索エンジン、SNSなどを通じてこれらのツールを知っています。[アントワープ大学](#) (2024) と [Child Focus](#) による調査では、15歳から25歳の13.8%がディープフェイクによるヌード画像を受け取った経験があると報告されています。

こうした背景を踏まえ、Microsoftは性的な画像の悪用防止や、生成AIによる有害コンテンツへの対策を進める取り組みを支援しています。

さらに、本資料の作成にあたり、Childnetは11歳から17歳の若者を対象に意見交換を実施しました。その結果、AI生成の性的ディープフェイク（AI技術を用いて、実在する人物の画像や映像を加工し、あたかも裸体や性的な状態であるかのように生成・改変する行為）について、多くの若者が認識しているだけでなく、実際に経験しているケースもあることが明らかになりました。特に、生成AIの発展によりその影響が拡大しています。

また、一部の若者が、冗談や仕返し、脅し、なりすまし、ネットいじめなどの目的で生成AIを不適切に使用している実態も確認されています。

意見交換を通して、生成AIや性的ディープフェイクに関するいくつかの誤解が明らかになりました。例えば、「露出度の高い服装をしていると、ヌード画像が作成されやすくなる」という誤解があります。しかし、生成AIを使って人物を裸に見せる場合、元の画像が露出度の高いものである必要はありません。このような誤解は、被害者を非難する文化（被害者が受けた被害の責任を問う考え方）や、生成AIの仕組みに対する理解不足から生じている可能性があります。なお、被害者に対する非難については本教材のレッスン3で詳しく扱います。

意見交換グループの参加者からは、若者が自分に関する有害なAI生成コンテンツについて、報告したり誰かに相談したりすることに困難を感じる場合があることが共有されました。これは、周囲の反応への不安が大きな要因となっています。また、このような画像に基づく性的被害は、以下のような影響を及ぼす可能性があります。

- メンタルヘルスへの悪影響（精神的健康への影響）
- 脆弱性の増大（傷つきやすい状態になること）
- 裏切られた感覚や屈辱感

さらに、若者たちは、生成AIの誤用が同世代の間で広がっていると感じており、他の若者にもこの問題について認識を広める必要性を指摘しています。

若者が生成AIを安全かつ責任をもって使用するためには、以下の理解が不可欠です。

- 生成AIの適切な使い方
- 誤用による影響
- 困ったときに支援を求められる場所

そのため、本テーマに関する教育的対応は緊急に必要とされています。

■ ヌード画像・性的ディープフェイクに関する法律

本教材は国際的な使用を想定しており、特定の国の法律には言及していません。そのため、教育者は授業実施前に、自国の関連法規を確認することが推奨されます。（32,33ページに日本の関連する法律を掲載。）

一般的に、18歳未満の人物のヌード画像や性的な画像を作成または共有する行為（生成AIによるものを含む）は、多くの国で違法となる可能性があります。また、画像が実際のものであるかAIによるものであるかに関わらず、画像に基づく性的虐待は、被害者に長期的な苦痛や深刻な影響を与える可能性があります。このため、本教材では以下の点に重点を置いています。

- 同意（本人の許可）の重要性
- 生成AIの責任ある使用
- 同意のないヌード画像の作成・共有がもたらす影響

テーマと主要用語の理解

生成AI（Generative AI、genAIと呼ばれることもあります）

AIシステムは、これまで人間の思考を必要としていた作業を実行したり、問題を解決したりするように設計されています。生成AIを活用することで、写真、音楽、メール、レシピなどを作成するようAIに依頼することができます。また、生成AIは大量の情報を処理し、与えられたタスクを達成することができます。現在、生成AIはさまざまなプラットフォームやアプリ、ウェブサイトで利用されています。

このように創造的かつ実用的な目的で多く用いられる一方で、不適切に使用される事例も存在します。その一例として、若者の間で問題となっている、画像を用いた性的被害が挙げられます。

若者に生成AIの安全で責任ある利用を教える際には、適切な教材や支援ツールの活用が重要です。Microsoftが提供している[クラスルームツールキット](#)（日本語あり）をご活用ください。

性的ディープフェイク

これは、AIを使って人物の画像を編集または生成し、その人物が裸または半裸であるかのように見せる行為を指す用語です。このようにして作成された画像は、「AI生成の性的ディープフェイク」、「同意のない性的画像被害」などと呼ばれることがあります。これらはいずれも、画像を用いた性的被害の一種です。

誤用

本資料では、「誤用」という用語を、危害を引き起こす可能性がある、または悪影響を及ぼす可能性のあるAIのあらゆる使用を指す言葉として用いています。

通報

「通報」とは、ある出来事について、プラットフォーム、組織、または法執行機関に通報する行為を指す用語です。本資料では、若者が支援を受けられるようにするため、「信頼できる大人に伝えること」も通報の一つの形として含めています。

セクストーション

生成AIの誤用の一つとして、セクストーション（性的脅迫）があります。これには、金銭を目的としたケースも含まれます。セクストーションとは、脅迫によって相手に望まない行為を強要する行為です。例えば、金銭の支払いや追加の性的な画像の送信などを求められることがあります。

また、加害者が生成AIを用いて人物のヌード画像を作成し、それを利用して脅迫を行う場合もあります。

セクストーションは犯罪であり、若者だけでなく大人も被害の対象となる可能性があります。被害にあった場合は、やり取りが行われたプラットフォームおよび法執行機関に報告することが重要です。

本資料では本トピックについて詳細には扱いません。より詳しい情報については、[ゾエ・ジャパンのウェブサイト](#)に掲載されている資料やガイダンスを参照してください。

保護者との連携

本件に対応する前に、保護者の同意が必要かどうかについて、所属機関の方針および各国の学習指導要領等のガイダンスを確認することが重要です。

また、家庭内で一貫したメッセージを伝えるためにも、これらのトピックについて保護者や養育者の関与を得ることが求められます。

安全で支援的な学習環境を整える

学習者がデリケートな話題について安心して考えたり話し合ったりできるようにするためには、関係者全員にとって安全で支援的な学習環境を整えることが不可欠です。

教育者は、学習者やそのニーズを最もよく理解しています。授業の実施前に、関わる学習者について十分に検討し、本トピックに対して困難を感じる可能性のある学習者や、その支援方法についてあらかじめ考えておくことが重要です。

また、授業前に基本的なルールを設定することが有効です。ルールは学習者自身が作成することが望ましく、それによりルールへの理解と責任感を高めることができます。ルールは年齢に適した言葉で、「お互いを支え合う」など前向きな行動として表現するようにします。

さらに、デリケートな内容を扱う際には、具体例を共有する場合でも実名を使用しないことをルールとして明確にしておくことが重要です。

授業中に懸念を生じさせる発言があった場合には、必要に応じて所属機関の子どもの安全保護に関する手続きに従い、適切に対応することが求められます。

子どもの安全保護に関する注意

本活動を実施する前に、所属機関の子どもの安全保護担当者や、生徒の生活面・心理面の支援を担うチーム、または管理職に相談し、必要な指導を受けることが重要です。また、特定の学習者に関する懸念事項についても、事前に共有しておくことが有用です。

何らかの事案を把握した場合には、必ず所属機関における通常の児童保護手続きおよび安全管理の方針に従って、適切に対応してください。

レッスン1

生成AIとは何か、どのような用途に使うことができるか？

学習目標：

生成AIの可能な活用方法と、それが人々にどのような影響を与える可能性があるかを理解すること。

準備するもの

- レッスン1のスライド
- ふせん
- 付録1の印刷物

 所要時間：10分  個人活動／全体活動

導入

- ① **スライド1**を提示し、今回の学習内容が生成AIであることを説明する。
- ② 学習者にふせんを配布する。**スライド2**を提示し、提示された質問に対する回答をふせんに記入させる。ふせんは、教室内の指定場所または各自の机に貼付させる。活動中は、学習者が生成AIについてすでにどの程度理解しているかを把握する。
- ③ 全体で共有を行う。頻出した意見や、有用な回答を取り上げて紹介する。

レッスン1（続き）

🕒 所要時間：10分 👤 全体活動

活動 1

- ① 生成AIの定義を示したスライド3を表示する。
- ② 生成AIにはさまざまな用途があることを説明する。例えば、プログラムのコードを書くために使用されることがある。続いて、スライド4の問い「生成AIの活用方法にはどのようなものがあるか？」を提示する。
- ③ 学習者の回答をクラス全体でマインドマップとして記録する。安全で責任ある前向きな利用だけでなく、生成AIの誤用についても考えるよう促す。

🕒 所要時間：30分 👤 ペア／全体活動

活動 2

- ① 生成AIの利用方法の中には、肯定的なもの（例：安全で責任ある使い方）もあれば、否定的なもの（例：AIの誤用）もあることを学習者に強調する。また、場合によっては、両方の側面を併せ持つ可能性があることも伝える。例えば、宿題で生成AIを使う場合、自分の考えを深めるための調査に活用することもできる一方で、問題の答えをそのまま生成AIに出させてしまうこともあり得る。
- ② 学習者にペアで活動するよう指示し、前の活動で考えた生成AIの利用方法や、新たに思いついたものを、ベン図（付録1）に分類させる。それぞれが「安全で責任ある利用」「誤用」、または「どちらの可能性もある」かを示すようにする。この活動の例示として、スライド5を使用することができる。

レッスン1（活動2 続き）

- ③ 学習者が分類を終えたら、どのように判断したのかを尋ねる。

ディスカッションの観点

- この生成AIの使い方は、利用者や他の人にどのような影響（気持ちの変化）を与えるか。
- 利用者は、その内容の正確さや信頼性を十分に検討せず、生成AIのみに依存していないか。
- 生成AIの利用は、利用者自身の学びや創造性を妨げていないか。
- それは利用者に利益をもたらしているか（生活を楽しんだり、新たな機会を与えたりしているか）。
- それは誰かが楽しんだり、創造的になったりする助けとなるか。
- それは誰に影響を与え、現在および将来においてどのような影響を及ぼす可能性があるか。

- ④ これらの観点到に共通している点の一つは、生成AIによって作られた内容が、利用者自身や他者にどのような影響を与えるかを考慮することであると強調する。

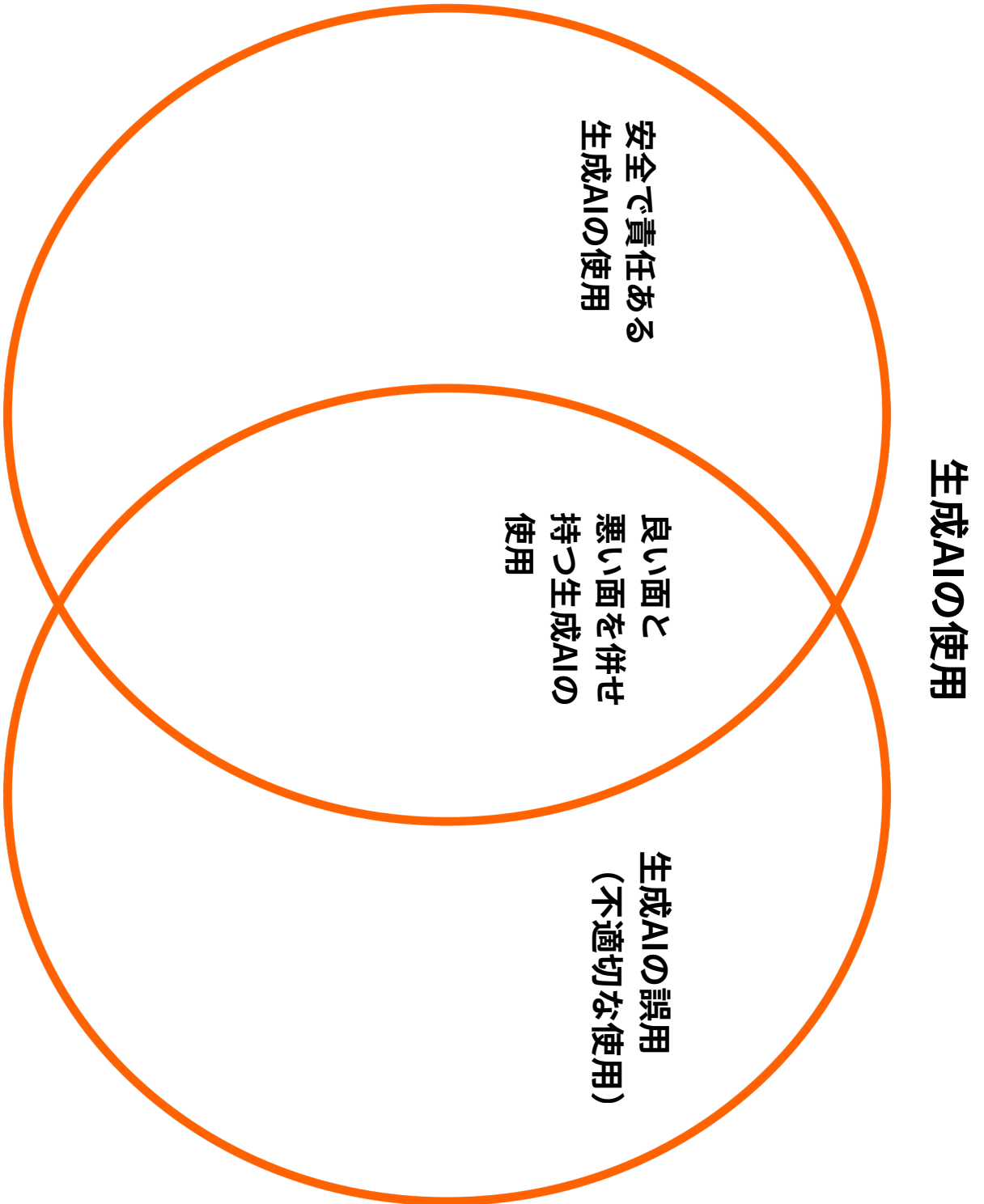
- ⑤ 学習者に、誤用であると判断したいいくつかの使用例に注目させ、「もし自分がこれを経験したらどのように感じるか」を考えさせる。いくつかの意見を取り上げ、それらの多くが人を傷つけたり、誰かに否定的な影響を与えたりするものであることを強調する。これにより、それらが生成AIの誤用である可能性があることを理解させる。

レッスン1（続き）

 所要時間：10分  ペア／小グループ

活動 3

- ① スライド6を提示し、本セッションで生成AIの安全で責任ある利用と誤用について学習してきた内容を学習者に再確認させる。
- ② 学習者にペアまたは小グループで活動させ、他者が生成AIを安全かつ責任をもって使用するためのルールを3つ提案させる。
- ③ 学習者に考えたルールを全体で共有させる。次のレッスンの冒頭での振り返りに活用するため、いくつかの意見を記録しておくことも有効である。



レッスン2

生成AIの誤用と起こりうる影響

学習目標：

生成AIがどのように誤用されるかを理解すること。

準備するもの

- レッスン2 スライド
- 付録2aのシナリオ（印刷して切り分けたもの）
- 付録2bのコピー（教師用・任意）

🕒 所要時間：5分 👤 ペア／全体活動

導入

- ① 前回の復習として、ペアまたは小グループで、生成AIの使い方が「安全で責任ある使用」か「誤用」かをどのように判断したかを話し合わせる。
- ② 学習者から意見を集めた後、スライド2でクリックして回答を提示する。

🕒 所要時間：30分 👤 ペア／小グループ

活動 1

- ① これから生成AIの誤用の具体例を扱うことを説明する。学習者はペアまたは小グループで活動する。各ペアまたはグループに、付録2aにある7つのシナリオのうち1つを配布する。

レッスン2（活動1 続き）

- ① スライド3の質問を提示し、配布されたシナリオについて以下の問いをグループで話し合わせる。

この事例では何が起こっているか

- なぜその人は、その方法で生成AIを使うことにしたと思うか？
- このような方法で生成AIを使うことには、どのような影響が考えられるか？ また、それは誰に影響を与えるだろうか？
- 次に何が起こると思うか？

- ② スライド4～10を用いて各シナリオを順に扱い、学習者に上記の問いへの回答を発表させる。想定される回答や議論のポイントについては、付録2bおよびスライドノートを参照する。

- ③ スライド11を提示し、これらの事例に共通している点は何かを考えさせる。クリックして回答を提示する。

 所要時間：10分  全体活動

活動2

- ① スライド12を提示する。
これまで扱ったすべての事例に「同意の欠如」が共通していることを説明する。「同意」とは何かをグループで話し合わせた後、全体で意見を共有し、クリックして定義を提示する。
- ② スライド12の次の4つのポイントを表示し、同意は以下の条件を満たす必要があることを説明する。
 - 自由意思に基づいて与えられていること
 - いつでも取り消せること
 - 十分な情報に基づいていること
 - 必要に応じて繰り返し確認されること

レッスン2（活動2 続き）

- ③ オンライン上で「同意」が重要となる場面にはどのようなものがあるかを学習者に問い、いくつか意見を出させる。
例
 - グループチャットに新しい人を追加する場合
 - 他者の写真を撮影・共有する場合
 - 投稿やメッセージのスクリーンショットを撮る場合
- ④ これまで扱ったすべての事例は「同意の欠如」により「オンライン上のセクシャルハラスメント」に該当しうることを説明する。
オンライン上のセクシャルハラスメントとは、望まれない性的な行動全般を指すものであり、生成AIの使用を含む場合もあるが、以下のような行為も含まれることを説明する。
 - 投稿への性的なコメント
 - 性的な内容の送信
 - 求められていないヌード画像の共有
 また、ハラスメントかどうかは行動の「意図」ではなく「受け手への影響」によって判断されることを強調する。
- ⑤ オンライン上で望まれない性的行為の対象となった場合は、信頼できる大人に相談し、該当するプラットフォームへ通報することが重要であると伝える。

 所要時間：10分  全体活動

活動 3

- ① これまでのシナリオに共通していたもう一つの点として、「生成AIを用いて人物を裸に見せる行為」であったことを再確認する。
これから、このような行為についてさらに詳しく考えることを説明する。
- ② スライド13～19を使用し、この種の行為に関する各文について、正しいか誤りを挙手で判断させる。各スライドでクリックして答えを提示する。

レッスン2（続き）

 所要時間：5分  ペア

活動 4

- 1 スライド20を提示する。

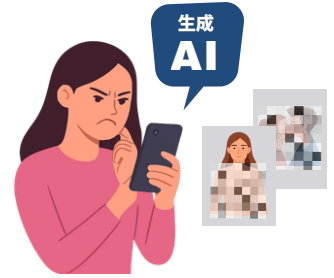
生成AIを用いて人物を裸に見せる行為について、今回の学習を通して「理解が深まったこと」または「印象に残ったこと」を1つ考え、ペアで共有させる。



シナリオ

1

AとBは友人だが、最近口論になった。
喧嘩して数日後、AはBが他のグループチャットで
悪口を言っていることを知る。
Aは腹を立て、生成AIアプリを使って、Bが裸に見え、
さらに同じ学年の誰かとキスしているように見える動
画を作ることにした。AはBが参加していないグループ
チャットにその動画を投稿した。



シナリオ

2

Cの友人から、オンラインで出回っているお気に入りの
ユーチューバーの写真をもう見たかどうか尋ねる
メールが送られてきた。
Cはそれを探している際、ユーチューバーが別の誰かと
性的な行為をしている写真を見つけた。
コメントの多くには、それは偽物であり、
生成AIを使って作られたものだと書かれている。



シナリオ

3

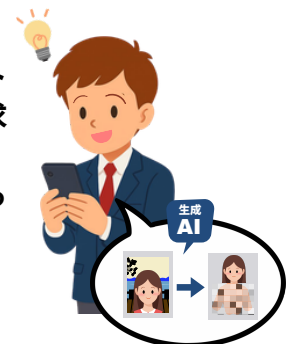
Dはサッカーの練習でコーチとうまくいかず、
次の試合に出場させてもらえなかった。
Dはそのことでイライラし、腹を立てている。
Dはクラブのウェブサイトに掲載されているコーチの写
真をスクリーンショットし、生成AIを使ってその
人物が一部裸に見えるように編集した。
そして、その画像をSNSで共有した。



シナリオ

4

Eは新しい友人グループと過ごす時間が増えていた。
Eはそのグループチャットに追加され、そこではお互いのパート
ナーのヌード画像が共有されていた。Eにも何か投稿するよう求
められ、パートナーの画像をチャットに送るよう頼まれた。
しかし、Eは共有できる写真を持っておらず、パートナーに送っ
てほしいと頼むこともしたくなかった。そこでEは、アプリを
使ってパートナーが裸に見える写真を作成することにした。
そして、その写真をグループに送った。





シナリオ

5

Fは数週間にわたりオンライン上の友人と親しくなっていた。2人とも学校でいじめを受けており、その内容には、投稿への悪意あるコメント、うわさの拡散、不適切な内容のDM送信などが含まれていた。

Fはその友人に、休暇中に撮った自撮り写真をいくつか送った。

翌日、学校でクラスメイトの一人から、Fのヌード写真がさまざまなグループチャットで出回っているのを見たと言われた。Fはこれまでヌード写真を撮ったことも共有したこともなかったため混乱した。その後Fがオンラインで確認すると、「オンラインの友人」は実は自分をいじめていた人と同一人物であり、Fが送った写真を使ってヌード画像を作成したことがわかった。



シナリオ

6

Gはある人気テレビシリーズの熱心なファンであり、オンラインのファンコミュニティに参加している。Gは同シリーズのキャラクターを描いたアート作品をいくつか目にした後、自らも制作を試みることにした。彼らは番組に登場する10代の恋愛カップルに焦点を当て、生成AIを用いて俳優の写真に加工を施し、裸で性行為をしているように見える画像を作成した。Gはその写真を番組に関するオンラインフォーラムで共有した。



シナリオ

7

Hは友人たちと一緒にビーチへ旅行に行く予定だったが、体調不良のため参加できなかった。その後、グループチャットで友人たちがビーチで撮った写真を共有してきた。その写真には、生成AIを使ってHが追加されていたが、Hは半裸のような露出の多い水着を着ている姿になっていた。Hの友人たちは皆、その写真について笑ったり冗談を言っている。



付録2aに対応する指導者向けガイダンス

全シナリオ共通

このような形で生成AIの対象となった人物は、以下のような感情を抱く可能性がある。

- ・ 恥ずかしさ・悲しさ・無力感や脆弱さ・裏切られた感覚・怒り・狙われている感覚
- ・ 不快感・孤立感・ひとりぼっちであるという感覚・性的に扱われている感覚・人として扱われていない感覚（非人間化）・誰にも相談できないと感じること・眠れない状態・学校に行くことや人に会うことへの不安

また、このような行為を行った側も、さまざまな結果に直面する可能性がある。

- ・ 学校での処分（停学・退学・校内での指導など）・法的責任を問われる可能性
- ・ 友人関係や人間関係の悪化・喪失・後悔・罪悪感、恥といった感情

シナリオ1

- ・ Aは、Bに関する発言への反応として、また報復したいという思いからこの行動を取っている。
- ・ この行為は、2人の関係の完全な断絶や、対立のさらなる激化につながる可能性がある。
- ・ また、この動画が学校内外に拡散される可能性もあり、その場合Bにとって非常に苦痛でつらい状況となる。

シナリオ2

- ・ 有名人や公的な人物は、実際にはしていない発言や行動、特に性的な行為をしているように見せる生成AIコンテンツ（いわゆる「性的ディープフェイク」）の対象となることがある。
- ・ 有名人は、嫌悪感を抱いている人によってこのような形で標的にされることがあるほか、単に面白半分で行われる場合もある。
- ・ 有名人は公の立場にあるため、このような行為を受けることを当然と受け止めている、あるいは影響を受けにくいと考えられることがある。しかし、対象が有名人であってもそうでなくても、このような形で生成AIの対象とされた場合、不快感や動揺、被害意識、不安などを感じる可能性がある。
- ・ 生成された画像が本物と見分けがつかない場合、事実ではない内容を他者が信じてしまう可能性がある。

シナリオ3

- Dはスポーツコーチに対する報復として、このように生成AIを使用している。
- このような形で生成AIの対象となった場合、相手が子どもであっても大人であっても、不快感や動揺、被害意識、不安などを感じる可能性がある。
- このような画像は、コーチの評判や将来のキャリアに不当に悪影響を及ぼす可能性がある。
- また、学校がこの画像の存在やDが作成・共有した事実を把握した場合、停学や校内での制限（休み時間や昼休みの制限など）、保護者や教職員の関与といった対応が取られる可能性がある。

シナリオ4

- Eはパートナーのヌード画像を持っていないため、代わりに生成AIで作成した画像を送信している。
- この行動は、新しい友人グループからのプレッシャーによるものである可能性がある。
- また、生成AIで作成した画像であれば「実際の画像を送るより問題が小さい」と考えている可能性もあるが、その認識は誤りである。
- Eのパートナーは、このような画像を作成されることに同意しておらず、この行為には法的な問題が生じる可能性がある。
- 他者のヌード画像を同意なく共有することは違法である。
- この画像の存在を知った場合、パートナーは強い傷つきや裏切られた感覚を抱く可能性が高い。
- また、この画像がグループ外に拡散される可能性もある。

シナリオ5

- Fはこれまでもテクノロジーやインターネットを通じたいじめを受けており、生成AIでヌード画像を作成・拡散されたことはその延長にある行為である。
- 加害者は学校でFを知っている人物であり、偽のプロフィールを使ってFに近づき、画像を入手した上で、生成AIによって加工し、さらなるいじめに利用している。
- このように継続的に標的とされることで、Fは強い悲しみや被害感、不安、無力感などを感じている可能性がある。
- オンライン上のいじめは、時間や場所を問わず発生し、多くの人が関与する可能性があるため、逃れられないと感じやすい。
- いかなる形であってもオンラインいじめは許されるものではない。発生しているプラットフォームへの通報や、信頼できる大人への相談が重要である。
- この画像がさらに広く拡散される可能性もある。

シナリオ6

- ファンダム文化の中では、好きな作品やキャラクターをもとに、新たな物語やアート、動画などの創作を行うことが一般的である。
- Gには悪意はなかった可能性が高く、この画像も作品やキャラクターへの関心や愛着を表現するために作成されたと考えられる。
- しかし、実在する人物（たとえフィクションのキャラクターを演じている俳優であっても）の写真や映像をこのような形で使用することは適切ではない。
- 俳優たちはこれまでもこのような行為について声を上げており、人として扱われていないと感じることや、プライバシーの侵害であると感じることがあると指摘している。

シナリオ7

- Hの友人たちは、Hが海に行けなかったことを受けて、冗談のつもりで生成AIを使った画像を作成している。
- Hを写真に加えることで「一緒にいるように見せる」意図があった可能性はあるが、同意なく半裸の状態に見せる加工が行われており、適切な行為ではない。
- H自身がその画像を面白いと感じる可能性もあるが、すべての人が同じように受け取るとは限らない。このような画像は、不快感や戸惑いを与える可能性がある。
- 軽い冗談やからかいは、容易にいじめへと発展する可能性がある。-もし自分の言動や投稿が行き過ぎていると相手から伝えられた場合は、その気持ちを尊重し、謝罪し、該当する内容を削除することが重要である。
- この画像がグループチャットの外へ拡散される可能性もある。

レッスン3

生成AIによって作られたヌード画像の通報

学習目標：

生成AIの誤用にどのように対応し、通報するかを理解すること、また通報にあたって生じるいくつかの障壁について理解すること。

準備するもの

- レッスン3 スライド
- 付録3aのコピー（前回と同じシナリオ）
- 付録3b（印刷・切り分け）
- 付録3c（印刷・切り分け）
- 付録3dのコピー（教師用・任意）

 所要時間：5分  ペア／全体活動

導入

- ① 前回の授業で、同意なく生成AIを用いて人物を裸に見せる行為と、その被害について扱ったことを学習者に想起させる。
- ② **スライド2**を提示し、「通報」という言葉を示す。
この言葉が何を意味するかについて、ペアまたは小グループで話し合わせる。また、オンライン上の問題を通報する方法にはどのようなものがあるかを考えさせる。

レッスン3（続き）

🕒 所要時間：25分 👤 全体活動／ペア

活動 1

- ① **スライド3**を用いて、この授業では生成AIによって作成されたヌード画像を通報する4つの方法について学ぶことを説明する。
 - ・ 画像が共有されたプラットフォーム上での通報
 - ・ 専門の支援サービスに通報
 - ・ 警察や地方自治体の関係機関に通報
 - ・ 信頼できる大人に相談
- ② **スライド4**では、通報前の証拠保全について説明する。
通報後は、アカウントが消される可能性があるため**通報前に行う**必要がある。本人の画像であれば証拠保全は問題なくできるが、本人以外の性的な画像の保存は法律違反になる可能性があるため、画像以外の証拠（相手のアカウント、脅迫や搾取の内容のメッセージなど）をスクリーンショット、保存が可能であると伝える。
- ③ **スライド5**では、状況別～通報の流れ～を説明する。
 - ・ 自分の画像を見つけた場合
 - ・ 友達の画像を見つけた場合（加害者は学校にいるケース）
 - ・ AIによる暴力や性的な画像を見つけた場合
- ④ **スライド6～11**を使用し、それぞれの通報・相談方法について詳しく説明する。各方法について、学習者が疑問を持った場合は適宜質問を受け付ける。
- ⑤ 通報の詳細を学んだ後、必要に応じて再度**スライド12**で状況別～通報の流れ～を確認する。
- ⑥ **付録3a**のシナリオをペアで配布する。
それぞれの状況に対してどのように対応するか、またどの通報方法が考えられるかを話し合わせる。

活動の最後に、被害を受けた本人以外でも通報が可能であることを強調する。
特に、被害者が画像の存在に気づいていない場合には重要である。
また、多くの場合、匿名での通報も可能であることを伝える。

レッスン3（続き）

🕒 所要時間：15分 👤 全体活動／ペア

活動 2

- ① スライド13を提示し、生成AIによるこのような被害を受けた際に、通報をためらう要因にはどのようなものがあるかを考えさせる。
想定される回答：
 - 恥ずかしさを感じる
 - どこに報告すればよいかわからない
 - 自分や知っている人がトラブルになることへの不安
 - 問題だと認識していない
 - オンラインプラットフォームが対応してくれないと思っている
- ② 付録3bを用い、ペアで「通報の壁」を自分たちの年齢にとって「最も起こりやすいもの」から「最も起こりにくいもの」まで順位づけさせる。
 - どの壁が自分たちに最も影響するか
 - どの壁が最も影響が小さいか
- ③ 活動の最後に、つらい経験をした後に通報することへ不安を感じるのは自然なことであると伝える。そのうえで、通報は支援を受け、状況を改善するための重要な手段であることを強調する。

🕒 所要時間：15分 👤 全体活動／ペア

活動 3

- ① 通報を妨げるもう一つの要因として「被害者非難」があることを説明する。
- ② スライド14を用いてこの用語を紹介し、その意味を説明する。
スライド上の具体例を示しながら、理解を深める。

レッスン3（活動3 続き）

- ① 被害者に対する非難は、被害を受けた人が支援を求めることを妨げる要因となりうることを説明する。自分に責任があると感じてしまったり、周囲からそう思われるのではないかと不安になる場合があるためである。
すでに強い動揺や恥ずかしさを感じている被害者にとって、被害者非難はさらに羞恥心や孤立感を強める可能性がある。
- ② ペアで、付録3cの文を、支援を求めている人に対して「助けになるもの」と「助けにならないもの」に分類させる。
- ③ その後、付録3dを用いて各文について確認し、どのように分類したかを全体で共有・検討する。
誰かが支援を求めてきた際には、落ち着いて、評価や決めつけをせずに対応することの重要性を強調する。

 所要時間：10分  全体活動

活動 4

- ① 質問箱を用意し、生成AIを用いて人物を裸に見せる行為に関する疑問を匿名で投稿させる。

投稿された質問に対してクラス全体で回答する。

その場で答えられない内容については、後で調べて共有する旨を伝える。

発展活動

- ① スライド15～17を用い、提示されたシナリオを読み上げる。

被害者の友人であった場合、どのような助言ができるかについて話し合わせる。レッスン3で扱った対応方法（以下）を想起させる。

- 画像が共有されたプラットフォーム上での通報
- 専門の支援サービスに通報
- 警察や地方自治体の関係機関に通報
- 信頼できる大人に相談

- ② 活動後、これらの行動がもたらす前向きな影響を示すため、以下のいずれかの課題に取り組ませる。

- a. ストーリーの続きを書く：シナリオの結末を自分で考える
「その後どうなるか」を考える
- b. コミック制作：物語を漫画形式で表現し、結末を加える
- c. ロールプレイ：シナリオと自分たちの考えた結末を演じ、発表する
- d. アドバイスコラム：これまでの学びをもとに、生成AIによる問題への対応について記事を書く
- e. ポスター制作：生成AIで人物を裸に見せる行為、その影響、適切な対応について啓発する内容を作成する

- ③ 通報の壁や被害者非難に関する視点も盛り込むよう促す。

シナリオ 1

AとBは友人だが、最近口論になった。喧嘩して数日後、AはBが他のグループチャットで悪口を言っていることを知る。Aは腹を立て、生成AIアプリを使って、Bが裸に見え、さらに同じ学年の誰かとキスしているように見える動画を作ることにした。AはBが参加していないグループチャットにその動画を投稿した。

シナリオ 2

Cの友人から、オンラインで出回っているお気に入りのユーチューバーの写真をもう見たかどうか尋ねるメールが送られてきた。Cはそれを探している際、ユーチューバーが別の誰かと性的な行為をしている写真を見つけた。コメントの多くには、それは偽物であり、生成AIを使って作られたものと書かれている。

シナリオ 3

Dはサッカーの練習でコーチとうまくいかず、次の試合に出場させてもらえなかった。Dはそのことでイライラし、腹を立てている。Dはクラブのウェブサイトに掲載されているコーチの写真をスクリーンショットし、生成AIを使ってその人物が一部裸に見えるように編集した。そして、その画像をSNSで共有した。

シナリオ 4

Eは新しい友人グループと過ごす時間が増えていた。Eはそのグループチャットに追加され、そこではお互いのパートナーのヌード画像が共有されていた。Eにも何か投稿するように求められ、パートナーの画像をチャットに送るよう頼まれた。しかし、Eは共有できる写真を持っておらず、パートナーに送ってほしいと頼むこともしたくなかった。そこでEは、アプリを使ってパートナーが裸に見える写真を作成することにした。そして、その写真をグループに送った。

シナリオ 5

Fは数週間にわたりオンライン上の友人と親しくなっていた。2人とも学校でいじめを受けており、その内容には、投稿への悪意あるコメント、うわさの拡散、不適切な内容のDM送信などが含まれていた。Fはその友人に、休暇中に撮った自撮り写真をいくつか送った。翌日、学校でクラスメイトの一人から、Fのヌード写真がさまざまなグループチャットで出回っているのを見たと言われた。Fはこれまでヌード写真を撮ったことも共有したこともなかったため混乱した。その後Fがオンラインで確認すると、「オンラインの友人」は実は自分をいじめていた人と同一人物であり、Fが送った写真を使ってヌード画像を作成したことがわかった。

シナリオ 6

Gはある人気テレビシリーズの熱心なファンであり、オンラインのファンコミュニティに参加している。Gは同シリーズのキャラクターを描いたアート作品をいくつか目にした後、自らも制作を試みることにした。彼らは番組に登場する10代の恋愛カップルに焦点を当て、生成AIを用いて俳優の写真に加工を施し、裸で性行為をしているように見える画像を作成した。Gはその写真を番組に関するオンラインフォーラムで共有した。

シナリオ 7

Hは友人たちと一緒にビーチへ旅行に行く予定だったが、体調不良のため参加できなかった。その後、グループチャットで友人たちがビーチで撮った写真を共有してきた。その写真には、生成AIを使ってHが追加されていたが、Hは半裸のような露出の多い水着を着ている姿になっていた。Hの友人たちは皆、その写真について笑ったり冗談を言っている。

自分たちの年齢で、相談や通報がしにくくなる理由について考えてみましょう。以下の理由を、「起こりやすいもの」から「起こりにくいもの」まで順番に並べてください。

恥ずかしさ



自分のせいだと思ってしまう


誰に相談すれば
よいかわからない

真剣に受け止めて
もらえないと思う

どこに通報すれば
よいかわからない

状況が悪化するのでは
ないかという不安

それが問題だと
気づいていない

通報した場合に
周囲がどう思うか、
どう行動するか
への不安

その画像が生成AIで
作られたと信じて
もらえないのではないか
という不安

自分がトラブルに
巻き込まれるのでは
ないかという不安


誰かが助けを求めてきたとき、これらの反応は「助けになるもの」ですか、それとも「助けにならないもの」ですか？



付録3cに対応する指導者向けガイドンス

「自分の写真を投稿したのだから、こうなることは予想すべきだった。」	不適切 自分の写真を投稿したからといって、このような被害を予想すべきであったり、受けてもよいということにはならない。写真の共有はオンライン活動の一般的で楽しい一部である。
「通報するの手伝おうか？」	適切 被害者が次取るべき行動を支援し、画像のさらなる拡散を防ぐことにつながる対応である。
「どうしてプロフィールを公開設定にしていたの？」	不適切 SNSアカウントは非公開にする方が安全ではあるが、公開設定にしていたことを理由に被害者に責任はない。
「話を聞こうか？」	適切 支援があること、話せる相手がいることを被害者に伝える対応である。
「それはつらかったね。そんなことはあっていいんじゃない。」	適切 その行為が不適切であることを明確にすることで、報告した際に真剣に受け止めてもらえるという安心感につながる。
「何かできることある？」	適切 被害者が必要としている支援を自分で伝えられるようにする対応である。
「そんなに大したことじゃないよ。本物の写真じゃないんだから。大げさだよ。」	不適切 たとえ生成AIによる画像であっても、被害者にとっては大きな苦痛となり得るため、軽視してはならない。
「あんな写真を投稿するべきじゃなかった。露出の多い服を着ていたからだよ。」	不適切 裸に見えるよう加工された画像において、元の写真で何を着ていたかは問題ではない。

日本の法律と通報について

次ページには、関連する法令を掲載している。法令の検索・参照を行う場合には、[e-Gov](#) 法令検索を活用することができる。

また、具体的な事例への対応や法的手続き等については、必要に応じて弁護士等の専門家へ相談することが望ましい。相談先の一例として、[法テラス](#)などの相談窓口がある。

通報

CSAM（児童性的虐待コンテンツ）やリベンジポルノ

① URLを持っている場合

- ・削除*だけを希望 → [IHC](#) + [SIA](#) に通報
- ・削除* + 刑事告訴を希望 → [IHC](#) + [SIA](#) + 警察に通報

② 画像ファイルを持っている場合

- ・削除*だけを希望 被害者が未成年 → [Take It Down](#)
被害者が成人 → [StopNCII](#)
- ・削除* + 刑事告訴を希望 → 上記サービスに加えて警察にも通報

※補足

[IHC](#)へ通報する際、性的ディープフェイクなど CSAM 以外のわいせつ画像については、「[わいせつ・アダルト](#)」窓口を利用してください。

削除*に関する説明

Take It Down や StopNCII では、登録された画像ごとに画像ハッシュ（又はそれに類する識別情報）を生成し、データベースに登録している。これにより、同一のハッシュを有する画像が再度投稿された場合には、加盟するプラットフォームにおいて削除対象として検出・対応が行われる。

一方で、画像が改変・加工・トリミングされている場合や、加盟していないプラットフォームに掲載された場合には、検出されないことがある。そのため、これらの仕組みを利用した場合でも、画像がインターネット上から完全に削除されるとは限らないことに留意する必要がある。なお、「必ず削除される」のではなく、「削除される可能性がある」仕組みであることを理解させることが重要である。

犯罪	法律名
児童ポルノ所持	児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律 *(以下、児童買春、児童ポルノ法) 第7条第1項、第2条第3項
児童ポルノ提供	児童買春、児童ポルノ法 第7条第2項、第2条第3項
児童ポルノ製造・写真・描写	児童買春、児童ポルノ法 第7条第3-4項、第2条第3項
児童ポルノひそかな制作	児童買春、児童ポルノ法 第7条第5項、第2条第3項
児童ポルノを多数に提供 ・公然と陳列	児童買春、児童ポルノ法 第7条第6項、第2条第3項
性的姿態等撮影－13歳未満	性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律*(以下、性的姿態撮影処罰法) 第2条1項第4号、第2条1項第1号
性的姿態等撮影－13歳以上 16歳未満	性的姿態撮影処罰法 第2条1項第4号、第2条1項第1号
性的姿態等撮影－年齢問わず	性的姿態撮影処罰法 第2条1項第1号
性的影像記録提供等	性的姿態撮影処罰法 第3条1項、第2条1項第1号
私事性的画像記録の提供等	私事性的画像記録提供法 第3条、第2条1項
わいせつ物頒布	刑法 第一百七十五条

Childnetの使命は、世界中のさまざまな団体と協力し、インターネットを子どもたちにとって安全でより良い場所にあることである。

私たちは、3歳から18歳までの子どもや若者と週に一度直接関わるとともに、保護者、養育者、教師、専門職とも連携している。

その中で、オンライン上での実際の体験について理解を深めるとともに、子どもたちが行っている前向きな取り組みを把握し、安全に関する助言を提供している。

さらに多くの教材・資料はこちらから閲覧可能：childnet.com/resources
